

同窓会だより

〈同窓会学術セミナー〉 “最強！ ドクター奥田のペリオ・インプラント実習”を受講して

23期 岡崎 康宏

去る11月20日、標記学術セミナーを受講させて頂きました。このセミナーは昨年も行われておりましたが、所用で参加できずにとっても残念な思いをしたことを覚えています。そんなわけで、今年は必ず参加したいと思い、案内が送られてきたその日のうちに申し込みをしました。

当日の実習は、朝の挨拶もそこそこに、9時すぎから午後の3時すぎまで途中休憩を挟みながら、まず実習を行いました。このセミナーの特徴は、案内にもありましたように「理論は後回しです。1日中、手を動かしていただいて体で体得していただきます」ということで、徹底的に手を動かしました。内容は5つのWorksが準備されていて、5人の受講生に一人ついてくださったインストラクターの先生が進度に応じてデモをしてくださり、デモと実習の繰り返しで進められました。

この実習でお得なところは、豚顎が一人に2つ用意されていて、余った時間も残った歯牙で繰り返し練習することができ、時間を無駄にすることがありませんでした。

実習が終わると、講師の村田先生による実際の症例解説があり、その日の実習内容と実際の臨床をつなげて考えられるように気配りされていました。

セミナーが終わってみると、さすがに5時間以上も豚顎とにらめっこしていましたので、お恥ずかしながら腰が痛くなり、普段の診療よりハードではなかったかと感じました。

以上のように、当日は充実度“最強”のセミナーを受講することができました。奥田先生をはじめインストラクターの先生方、当日、お手伝いし

ていただいた医局員、同窓会担当の先生方、大変ありがとうございました。

来年以降もこういった臨床に直結した中身の濃いセミナーを企画していただけるとありがたいです。

同窓会学術セミナーに参加して

34期 小野田 佐絵子(旧姓・黒澤)

今回卒後初めて研修セミナーに参加させて頂きました。受講を決めたものの、どのようなものなのか不安もあり少々緊張して、また、卒業以来に訪れた新潟に懐かしさを感じながら会場へ向かいました。

卒後二年目の私にとって、歯周組織再生療法をテーマにしたセミナー実習は、ついて行くのが精一杯という状態でした。慣れないメスと持針器を手に、豚顎と格闘しながらあつという間に一日が終わってしまいました。実習を進めつつ、なんとなく学生実習を思い出したり、学生時代にお世話になったライターの先生方に声をかけて頂いたりしながら、かなり密度の濃い時間を過ごすことができました。集中して必死で実習を受けた分、その経験は大変充実したものになりました。それは、自分のこれから先の歯科医師人生を考えたい時に、セミナーの具体的内容のみならず、セミナーに参加したというその経験自体が大変大きな意味を持つのではないかと感じています。

私自身は、今回のセミナーのような歯周外科・インプラントなどに限らず、まだまだ学ぶことは山積みですが、常に学んだことを生きた知識・技術として、日々の診療に役立てていこうという気持を忘れずに、今後も歯科医師として歯科医療に携わっていきたいと考えています。

最後になりましたが、奥田助教授をはじめとす



るインストラクターの諸先生、ならびに同窓会の先生方、お忙しい中ご指導頂きましてどうもありがとうございました。

同窓会学術セミナー風景



平成17年度第1回歯学部教授会・同窓会定期協議会開催

渉外理事 杉本浩志

日 時：平成17年8月17日(水) 午後7時から

場 所：日本料理「かき正」

出席者：(教授会) 山田学部長、宮崎副病院長、
吉江副学部長、前田副学部長

：(同窓会) 多和田会長、野村副会長、
佐藤副会長、赤坂副会長、宮野副会長、
鈴木副会長、成田専務理事、杉本理事

【多和田会長挨拶】

歯学部、同窓会を取り巻く社会情勢の変化とともに相互の関係も変わっていくが、今後とも同窓会と大学との連絡を密にとり、積極的に相互の理解を深めるようご協力を賜りたいとの挨拶があった。

【山田学部長挨拶】

「法人化後の歯学部(機構、予算、任期制、国際口腔生命科学コース、口腔生命系の再編、その他)」の資料が配布された。大学院組織の改編、教員の所属、口腔生命福祉学科の設置などの報告の後、新潟大学の3つの学系(医歯学系、人文社会・教育学系、自然科学系)について説明した。人事が学系単位となり、別途委員会で調整されるため、歯学部で空きポストが出てすぐには人員を補充できない状況である。予算に関しては従来の学部レベルから、大学単位に配分が変更されたため、学長の裁量権が大きくなり、プロジェクト研究経費や学長裁量経費など、競争的予算部分が拡大している。歯学部では、科研費採択率が比較的高いため、口腔生命福祉学科を含むいわゆる旧講座への予算配分は潤沢なほうである。平成14年度から5年間の任期制が導入された。これはリストラのためではなく、公務員の体質を改善し、社会に理解してもらうための制度である。平成18年度末に最初の任期が切れる教員が出るが、再任に向け歯



学系教育会議では WG を作り評価案を検討している。また、アジアからの留学生が増加し、その帰国後の研究環境を視察した結果を踏まえ、現地での拠点校の必要性を認識した。今年度は、スリランカ、タイで拠点校の候補 2 校に教職員を派遣するとともに相手国からも教員を招聘し、国際口腔生命科学コースの設置を目指している。

【協 議】

1) 歯科医師臨床研修について

新潟県内では、同窓生が多いこともあり受け入れ施設数は足りているが、全国的には未だ不足している状態である。また、研修医がすべて県内の施設を希望するわけではないので、受け入れ側とのマッチングの問題も生じてくる。来年度の受け入れ施設の申請は締め切っており、再来年度に関してはまだ不明である。先々の状況を把握しながら、同窓会としてはバックアップを続ける。

2) 歯学部と同窓会との連携について

同窓会より、市民講座を盛り上げるために同窓会員の診療所で講座を案内してはどうかと提案した。大学側からは出前講座も開催していると説明があり、同窓会を通じて市民が何を求めているか知りたいとの意見が出た。講座の内容を充実させ、受講者が興味を持つてくれることが大切であると結論した。

次に、県外の同窓会から大学に講演を依頼する際、誰に依頼できるのかといった情報が欲しい。内容に関しても、実際に臨床に出ている Dr. に話を聞きたい。大学としては臨床や研究内容に関する情報を HP 上に公開することが出来る。また、どのような講演が必要とされているのか、同窓会からも情報をあげて欲しいとの意見が出された。

他に、大学からの出版物に関する情報を同窓会員に PR するため、出版物のリストなどをそろえてもらえば、同窓会誌と一緒に会員に発送することが出来る。また、大学側からは病院の外来で使用している有用な薬剤などを同窓会を

通じて紹介するなどして相互の連携をより深めてゆきたい。

3) 全学同窓会連絡協議会イベントについて

全学同窓会連絡協議会イベント（10月29日）に大学からも出席してほしい旨依頼があったが、当日は OSCE と当たるため、厳しい状況である。

4) その他

歯科医師免許の更新制度の見直しに関しては、現時点では全く情報が得られていない。歯科医師制度そのものの根幹にかかわる問題でもある。

11月に口腔衛生福祉学科の編入試験がある。衛生士免許があれば受験できるので、同窓会員にも周知してはどうか。

病院前の道路の拡幅工事に伴い、病院の駐車場が減る見込みである。歯学部にとって、駐車場は通院のための重要なファクターであるが、他に駐車場を確保することは困難である。バス、タクシー等の公共交通機関の乗り入れを図るなど、利便性を確保したい。

【宮崎病院長挨拶】

定期的に会合を持ち、議論を交わしながら、常に新鮮な気持ちで同窓会と学部との関係を深めてゆきたい。

第52回全国歯科大学同窓・校友会懇話会に参加して

専務理事 成 田 秀

日 時：平成17年11月19日(土) 午後 2 時から

場 所：福島県郡山市 ホテルハマツ

当番校：奥羽大学歯学部同窓会

第52回全歯懇が奥羽大学歯学部同窓会の主催で郡山市内のホテルにて開催され、全国の歯学系28大学の同窓・校友会の代表者が集い、我が新大同窓会からは多和田会長、宮野副会長と私の3名が





出席しました。その日の模様をご報告します。

1. 開会の辞

奥羽大学歯学部同窓会 副会長 板倉 正大

2. 当番校会長挨拶

奥羽大学歯学部同窓会 会長 岡 伸二

3. 来賓挨拶

日本歯科医師会 会長 井堂 孝純

福島県歯科医師会 会長 宮城 罔泰

奥羽大学 歯学部長 新田 敏正

4. 来賓紹介

5. 出席者紹介

6. 特別講演

講師：落語家 桂 才賀 師匠

演題：「子供を叱れない大人たちへ」

【講演要旨】

講師の桂才賀師匠は落語家としての活動のかわら、法務省少年院篤志面接委員を務められ多くの少年院生に接してこられた。その経験から近年の少年犯罪の増加・低年齢化の原因のひとつとして家庭環境の変化、特に父親の権威・存在感の低下を挙げられました。また、最近は怒るばかりで叱ることが出来ない大人が増えていと述べられ、怒るとは自分に不都合な事に怒りを爆発している事で感情的な行為であるのに対し、叱るとは相手の過ちを正してやる事で感情を抑えて冷静にならないと出来ない行為である。そして実際に親や教師などの周囲の人間

が発した一言が時にどれほど心を傷つけ、時にどれほど心を癒すか、少年院生の一言集を例に挙げ述べられました。今回の演題は歯科治療に直接関係するテーマではありませんでしたが、父親として、また患者様という人と接する職業にたずさわる医療人として、一言の持つ重みというものを考えさせられる講演でした。

7. 討議

「次世代に向けての同窓会・校友会のありかた」
座長 奥羽大学歯学部同窓会 会長 岡 伸二
事前に各大学に依頼したアンケートの結果を基に、各項目ごとに2～3校からコメントを求める形式で行われた。

アンケートの内容・結果としては

- 1) 会員の入会について：本人の意思を確認している大学が28校中3校あった。
- 2) 会費の徴収について：入会金を徴収しているのは18校あった。会費徴収制度は年会費制14校、全納制5校、前納制+年会費制9校で、会費免除制度があるのは10校で大半は75歳からである。会費徴収時期は入学時3校、在学時5校、卒業後20校であった。
- 3) 在学生の身分について：会員として1校、準会員が13校、特になし・その他が14校。
- 4) 在学生への啓発活動については：28校中27校で行っており活動内容は、同窓会行事への参加（勉強会や総会など）11校、同窓会発行文書の配布（会報や名簿など）13校、同窓会オリエンテーションの開催15校、在学生のための厚生行事の開催10校であった。
- 5) 会員の所在把握について：同窓会本部にてハガキなどで把握15校、各支部の協力を得て把握7校、各卒業会期の協力を得て把握12校、大学の協力を得て把握8校、その他4校。
- 6) 名簿の配布については：毎年配布3校、数年に一度配布21校、数年に一度配布しているがその間追加分を別刷りで配布4校であった。配布方法は、無料で全員に配布26校で有料で希望者に配布が2校であった。
- 7) 平成18年度より施行される卒後研修歯科医





制度について：「協力型施設」として認可を受けた会員を把握しているのは8校、していないは20校。その活動を大学とタイアップしているのは17校、していないは8校であった。また、協力型施設の獲得枠のやりとりなどで全国の同窓会・校友会が今後協力していく必要性を感じるは23校、感じないは4校。

8) 大学との連携について：大学とお互いの情報の共有について連携が取れているか？

とてもうまく取れている0校、大筋で取れている18校、取れているが問題もある6校、取れていない4校であった。また大学と定期的に協議会を開催しているのは18校あった。

以上のような結果であったが、各校とも会費の納入率の低下や会員の所在の把握に苦勞しており、また個人情報保護の観点から会員名簿の取り扱いに留意している事がうかがわれた。そして、卒後研修歯科医制度については各校ともまだ手探り状態で今後の状況を見て対応するというのが現状と思われた。

8. 協議：次々期当番校選出

九州大学歯学部同窓会に決定

9. 次期当番校挨拶

昭和大学歯学部同窓会 会長 飯島 裕之

10. 閉会の辞

奥羽大学歯学部同窓会 副会長 角田 哲

の会議でしたが、同窓会室の現状、名簿の取り扱い等について各校との情報交換を中心に意見交換を行ないました。以下にご報告致します。

会次第

1. 開会の辞

東北大学歯学部同窓会 専務理事 新沼 康弘

2. 当番校挨拶

東北大学歯学部同窓会 会長 大内光太郎

3. 出席者紹介

4. 講演

演題 「医師卒後臨床研修制度への一線病院の対応と今後の問題」

講師 大原綜合病院附属大原医療センター病院長 小泉 勝 先生

【講演要旨】

医師臨床研修制度は2年前より実施されている。現在国民が求める医療は医療の「質」と「安全性」である。この点を踏まえ、大原綜合病院では臨床研修の基本的立場として「医師として的人格形成」と「全人的医療の実践」を2本柱に卒後臨床研修プログラム（管理型）を実施している。研修制度開始当初は、大学（医局）から預かって研修後返すと考えていたが、経済的負担が大きいため、良い研修医の確保は病院の活性化、外部評価につながると考え、積極的に採用しようとするようになった。そのため広報活動（ホームページの充実、各地での病院説明会の参加等）に力を入れ、特色ある研修プロ

平成17年度新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会報告

副会長 宮 野 正 美

日 時：平成17年11月20日(日) 午前9時～12時

会 場：郡山商工会議所

当番校：東北大学歯学部同窓会

全歯懇開催の翌日、恒例の新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会（国歯協）が全10校（北海道、東北、新潟、大阪、岡山、広島、徳島、九州、長崎、鹿児島）参加のもと開催されました。3時間





グラムや研修医の処遇を明示している。しかし、医学生の実習病院選択基準の優先順位は1. 研修内容・体制、2. 地域、3. 給与・待遇となっており、東京を中心とした都市部に集中がちであり、東北地方の地方病院は苦戦を強いられているのが現状である。解決策として、1. 魅力ある研修病院の整備（中堅医師の充実、診療内容の整備、屋根瓦方式の充実整備）、2. 後期研修への取り組み、3. 後期研修病院としての大学臨床系の充実（専門医制度）が考えられる。

歯科においても医療の「質」と「安全性」は国民の求める所であり、卒後臨床研修制度において、専門性とプライマリケアの質の高さをいかに保てるかが鍵となるであろう。

5. 協議・報告

1) 同窓会室（会館）の現状と将来の見通しについて

大阪大学を除いては、各校現状の同窓会室は学内か担当役員宅にあり十分な広さを有し

てはない。そのため自前の同窓会室（会館）設立の必要性はあるものの、具体的な計画があるところはない。

2) 個人情報と名簿について

今年名簿発行年の同窓会は名簿の記載内容を会員一人一人に意思確認しているところが多かった。

3) 卒後臨床研修について

「協力型臨床研修施設」標榜を責任あるものとするため、指導歯科医講習会受講資格を大学各講座または同窓会の推薦が必要とした（大阪大学）。

4) 国家試験不合格者に対する対応について

5) 次回・次々回の当番校について

次回 鹿兒島大学

次々回 九州大学

6) その他

6. 閉会の辞

東北大学歯学部同窓会 福島県支部長

鈴木 峰郎

